

令和3年度近畿大会が開催されました

東成育成園支部 中島由紀子

令和3年9月26日に「第60回近畿知的障がい者福祉大会」が東大阪市文化創造館で行われました。

大会主題に「コロナ禍だからこそ、今 手をつなぐ、響く、支えあうー新しい大会の姿とつながりを模索してー」を掲げ、徹底した感染対策のもと少人数の会場参加と、会場に来られない人にはパソコンやスマートフォンへ同時にネット配信される「ハイブリッド型」と呼ばれる新しい形での開催となりました。

スクリーンに映し出されたのは東大阪市の中学3年生で全盲のドラマー酒井響希君ご一家のインタビュー映像と素晴らしいドラム演奏でした。そしてお母様が家族で支え合いながら歩んでこられた道のりを話されました。

響希君は2歳の時に両眼性網膜芽細胞腫という小児がんが見つかり、両目の摘出手術をしています。次第に音に強い興味を持ち、4歳からドラムを習い始めるとメキメキと上達。24時間テレビでX JAPANのYOSHIKIさんと共演し、東京オリパラ開会式・閉会式に出演する夢も叶いました。響希君の演奏は全盲の少年であることを忘れるほどダイナミックで、将来の夢は「世界中の人に勇気と希望を届けるドラマーになること」だそうです。

我が子が両目を失う手術の同意を迫られたお母様はどれほど辛かったことでしょうか。悲しむばかりのお母様でしたが、何でも挑戦する響希君に「もう泣かないてな」と励まされて前を向くことを決意し、見える世界と見えない世界を繋げる役割をすることで響希君を支えてこられました。これからは障がい者がもっと暮らしやすい社会、偏見のない社会になるよう貢献していきたいとおっしゃいました。

【ドラム演奏をする酒井 響希君】



響希君が生演奏を披露された次に、全国育成会連合会の久保厚子会長が「新しい全国育成会連合会の船出ー2年目からこれからー」について講演されました。

平成26年に解散する時の約束であった「機関誌手をつなぐを発行し続ける」「東京に再び事務所を開設する」「法人格を取得する」を実現され、一般社団法人2年目のこれから、全国育成会が目指すことについて下記の項目を挙げられました。

- ① 事務局体制強化を更に進める。
- ② 地域育成会を含む組織活性化を進める。
- ③ 障害のある本人が活躍できる準備を始める。
- ④ 財政基盤の強化を進める。
- ⑤ 次世代を担う会員の育成を進める。
- ⑥ IT活用方法を検討し、正会員育成会を通して各会員の参加が可能になるよう進める。

これらを実現させる為に久保会長が考えておられる取組みを1つずつ丁寧に説明されました。

会員への福利厚生として保険の代理店事業も始まっており、10月にスタートした「おたすけプラン保険」は団体割引が可能になる加入数に達しました。

また、この大会のようにITを活用することで遠方の会員もリモートで大会や研修会へ参加が可能になるので、急ぎITチームを創設し会員への情報発信をしていきたいとのことです。

「育成会の原点は教育の保証・人権擁護・政策提言です。障がいのある我が子が社会で当たり前で過ごせるよう、自分たちの困りごとを国に要望していきます。今こそ育成会活動が必要な時、私達と一緒に皆さんも一歩踏み出しましょう」と力強く語られました。

この後式典が続き、本人大会の決議案、大会宣言案が読み上げられ採択されました。来年度は奈良県育成会が「医療」をテーマに開催されます。



令和3年度 大阪市社会福祉大会が開催されました

令和3年10月15日(金)に国際交流センターにおいて、令和3年度 大阪市社会福祉大会が開催されました。

式典では大阪市社会福祉協議会会長表彰・市長表彰併せて77団体552名の授与式が行われました。

今年は、コロナ禍での開催であったため、会場内は